



競輪の補助事業

この事業は、競輪の補助により実施しています。
<https://hojo.keirin-autorace.or.jp/>

< オリンピック・ムーブメント事業 >

JOCオリンピック教室

実施報告書

埼玉県 三郷市立北中学校



公益財団法人 日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

平成21年4月の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和5年4月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2023年4月～2024年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、身体を動かす
ことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、自身が感じた
オリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ

2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した自己紹介



オリンピック自身の経験に基づく「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です。
※内容はオリンピックによって変動する場合があります。

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■オリンピック：村上佳宏先生（近代五種）【出場オリンピック／北京2008大会】

■期 日：2023年7月11日(火)

■クラス：2年1組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・北京2008大会に近代五種競技で出場したと自己紹介。近代五種競技は水泳、フェンシング、馬術、陸上競技、射撃の全ての競技を1日で行う競技だと説明。運動の時間は、元気よく、楽しく、挑戦することの3つの約束を守ってほしい。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「挑戦」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「尊敬」と説明。準備運動は体育館を床タッチヤスキップ、サイドステップを入れながら走る。その後、計算問題の答えの人数で集まるゲームを実施。

○主運動等



・主運動は「紙コップ積みリレー」を実施(全3回)。班毎に12個(1人2個)の紙コップを配り、走った先のテーブルに積み上げる。全員が積み終わる速さと、積んだ紙コップの高さ(段数)の総合得点を競う。ゴールの速さは1位が6点とし6位が1点。コップの高さは積んだ数を得点とする。途中作戦タイムを設け意見を出し合う。3回目は紙コップを各班3個追加して実施。



・運動の時間を振り返り、各班協力して作戦を考え、紙コップの積み方を工夫していた。紙コップを積み上げる単純なゲームだが、1人1人が考え、皆で知恵を出し合って協力しないと、高得点を出すのが難しいことを体験できたと思う。その経験がオリンピックバリューにつながる。座学の時間は、自身のオリンピック出場までの経験を話し、オリンピックバリューについて、更に一緒に考えていこうと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：村上佳宏先生（近代五種）【出場オリンピック／北京2008大会】

■ **期 日**：2023年7月11日(火)

■ **ク ラ ス**：2年1組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・競技映像を見ながら自己紹介。大学生まで水泳／競泳競技に取り組んでいた。オリンピック出場の夢はずっと持ち続け、高校生の時にはインターハイにも出場したが、その先世界レベルに達することは難しいと思っていた。そんな時、大学時代の恩師に近代五種競技を勧められ、自分が得意としている競泳種目が含まれていることでとても興味を持った。大学卒業後、自衛隊で本格的に近代五種競技を始める。何事も諦めずに練習してきたことが、オリンピック出場の夢を叶えた大きな理由だ。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に皆で考え、実践したことを、オリンピックバリューに当てはめよう。

発表：エクセレンス：「コップが崩れても最後まで諦めなかった」「挑戦する気持ちを持った」「落とさないように丁寧に積む」等

フレンドシップ：「次の人が積みやすいように積む」「声を掛け合う」「チームワークを意識した」「仲間と協力した」等

リスペクト：「ルールを守った」「仲間に感謝」「コップを積んだ後皆で喜び合えた」「お互いを尊重できた」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックバリューは、コップを積むだけのゲームの中にも皆の身近にも存在する。オリンピックに出場できたことが凄いのではなく、諦めないで努力することが大切である。皆も目標を持って生活してほしい。また、今日家に帰ったら家族にありがとうと、日頃の感謝を伝えてほしい。これから高校受験等を控え、苦しいことも、辛いこともあると思うが、頑張った分だけ必ず自分に返ってくる。自分を信じて諦めないでほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：海淵 萌先生（カヌー／スラローム）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2023年7月11日(火)

■ク ラ ス：2年2組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ロンドン2012大会にカヌー／スラローム競技で出場したと自己紹介。自身のカヌーとパドルを披露、カヌー競技にはスプリントとスラローム種目があり、スプリントは湖のような水面で競い、スラロームは激流を下りながら関門を通過する。オリンピックバリューのエクセレンス、フレンドシップ、リスペクトについて説明。準備運動は、制限時間内に3つのポイントをクリアし、何人ゴールできるかを競う「じゃんけん勝ち抜け」を実施。

○主運動等



・主運動は「8の字跳び」を実施(全2回)。2つの班を1つのチームとし、左右交互から8の字を描くように跳ぶ。回し手を決め、縄の長さや跳ぶ位置等を各班話し合った後実施。連続して跳べた回数を競う。引っ掛かった場合は1から数え直す。制限時間は90秒とし、途中作戦タイムを設け、回数を増やす工夫を話し合う。



・運動の時間を振り返り、8の字跳びを実施の際、どのようなことに意識し努力したかを尋ねると、声だし、跳ぶタイミング、縄を回すスピードを考える等答える。座学の時間は、自身のオリンピック出場までの経験を話し、オリンピックバリューに当てはめながら、皆と一緒に考える時間にしようと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：海淵 萌 先生 (カヌー/スラローム) 【出場オリンピック/ロンドン2012大会】

■ **期 日**：2023年7月11日(火)

■ **ク ラ ス**：2年2組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自身の競技映像を見ながら自己紹介と競技説明。スラロームは約300mの激流に設置された関門をカヌーで通過しタイムを競う。関門に触れたり不通過があるとペナルティとなりポイントの減点がある。コースは自然の川だけではなく、コンクリート製の人口のコースもある。オリンピックシンボルは5大陸を表し、世界平和の願いが込められている。ピエール・ド・クーベルタンが創設したオリンピックは、競技力を競うだけではなく、オリンピックバリューを備えた人間の成長を目指している。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「最後の1秒まで諦めない」「全力を尽くす」「引っ掛かっても諦めずに跳び続けた」等

フレンドシップ：「声掛け」「思いやり」「アドバイス」「フォローし合おう」「自分から縄の回し手を引き受けてくれた」等

リスペクト：「他の班の良い記録に刺激された」「引っ掛かっても仲間を責めない」等



・グループワークの発表を聞いて、運動の時間でオリンピックバリューのエクセレンス、フレンドシップ、リスペクトを皆自身が体感することができたと思う。自身がオリンピック出場までに感じたオリンピックバリューの、何事も諦めない気持ちは、皆の日常と同じだ。部活動や勉強だけではなく、これから好きなことややりたいことをたくさん見つけてほしい。常に優しい気持ちを忘れずに、150%の努力をして頑張してほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：海淵 萌先生（カヌー／スラローム）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2023年7月11日（火）

■ク ラ ス：2年3組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・ロンドン2012大会にカヌー／スラローム競技で出場したと自己紹介。1人乗りのカヌーとパドルを持参し披露。カヌーは約9 Kg程の軽量で、パドルは左右両方に水かきが付いている。オリンピックは競技力を競うだけではなく、オリンピックバリューを意識することで、人間を育て平和を願う目的がある。運動の時間はオリンピックバリューを意識しながら取り組んでほしい。準備体操の後、じゃんけんで3つのポイントをクリアしてゴールするゲームを実施。

○主運動等



・主運動は「8の字跳び」を実施(全3回)。2つの班を合わせ3チーム対抗とし、左右から8の字を描くように跳び、90秒間に連続して跳んだ回数を競う。引っ掛かった場合は1回から数え直す。ルール説明後作戦タイムを設け、回し手を決め、回数を多く跳ぶための作戦を各班考える。



・運動の時間を振り返り、結果も大事だが、回を重ねる毎に大きな声を掛け合い、協力してベストを尽くしながら取り組む様子は素晴らしい。皆のすべての行動はオリンピックバリューに当てはまる。座学の時間は、自身の経験をオリンピックバリューに当てはめて話すと同時に、皆にも運動の時間を振り返り、感じたオリンピックバリューをグループで話し合う時間にしてほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：海淵 萌 先生（カーナー／スラローム）【出場オリンピック／ロンドン2012大会】

■期 日：2023年7月11日(火)

■ク ラ ス：2年3組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自身の競技映像を見ながら自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「ベストを尽くす」、フレンドシップ：「友情」、リスペクト：「敬意/尊敬」と説明。自身は3歳の時に川遊びで初めてカーナーに触れ、小学生の頃から本格的に競技に取り組んだが、特別なコーチに教えてもらった訳ではなく、競技経験のなかった父親と試行錯誤しながら、ひたすら基礎練習を繰り返した。自分自身の努力だけではなく常に支えてくれた父親や周りの人のお陰でオリンピックに出場できた。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書き出してみよう。

発表：エクセレンス：「諦めずに跳び続ける」「疲れても回し続ける」「時間いっぱい頑張る」「全力で跳ぶ」等

フレンドシップ：「一生懸命声を出した」「お互い励まし合った」「協力した」「引っ掛かってもすぐに立ち直った」等

リスペクト：「チームの皆を信じる」「仲間を応援し合う」「他のチームを称える」「周りの人や環境に感謝」等



・座学の時間を振り返り、グループワークの発表を通して、皆がベストを尽くして頑張ったということがよく伝わる。結果や勝ち負けばかり追うのではなく、相手を認め、称え合い、優しい気持ちを持つからこそ、結果も意味を増すと思う。オリンピックバリューを意識してそれを行動に移すことで、競技力だけではなく、人間力の向上にもつながる。ぜひ大きな夢を持ち、全力で悔いの残らないように頑張ること、そして仲間や周りの人に感謝することを忘れないでほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：濱口典子先生（バスケットボール）
【出場オリンピック／アトランタ1996大会、アテネ2004大会】
- **期日**：2023年7月12日(水)
- **クラス**：2年4組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・アトランタ1996大会とアテネ2004大会の2大会に、バスケットボール競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて説明。準備体操は壇上に上がった代表生徒1名と、体で大きく表現するじゃんけんゲームを実施。準備運動は1人1球バスケットボールを持ちボールを使ったストレッチを実施。その後2人組で対面になり、ドリブル、パス、シュート練習。最後にゴール下に分かれシュート練習を行う。

○主運動等



・主運動は「パス&シュート競争」を実施(全2回)。2箇所のゴールを3班ずつ使用し、各班パスを回しながらゴールに進みシュートを打つ。パスを回す順番は決めておき、順番通り全員がボールに触る。シュートが成功したらマーカーを1枚持ち帰る。途中でボールを落とした場合はスタート位置に戻って再スタート。リバウンドが成功すれば続けて何度でもシュートが打てる。2回目は、マーカーの色で得点を分け、持ち帰ったマーカーの色の点数を計算し、総合得点を競う。



・運動の時間を振り返り、オリンピック選手でもシュートを決めるためには、フォームチェックをしながら、数えきれないほどのシュート練習を繰り返す。相手にパスを渡す時も思いやりの気持ちを持ってパスをする。皆が作戦タイムで話し合う時、仲間の意見や考えを尊重していたことはとても素晴らしい。座学の時間は、自身のオリンピックでの経験をオリンピックバリューに結び付けて話すので、皆も自分自身に置き換えて考えてほしい。最後に、整理体操を行い授業終了。

- **オリンピック**：濱口典子先生（バスケットボール）
【出場オリンピック／アトランタ1996大会、アテネ2004大会】
- **期日**：2023年7月12日(水)
- **クラス**：2年4組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・自身の競技映像を見ながら自己紹介。試合中に最後のフォールをしてしまうと退場になってしまう状況の中でも、思い切ってプレーすることを許してくれた監督や仲間に感謝している。また、相手のサイドからシュートを打つフックシュートを誰よりも先に習得したことは大きな自信になった。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンは、オリンピックを開催することで世界平和を願い、オリンピックシンボルは5大陸のつながりを表わすと説明。

○個人ワーク～グループワーク等



発問：運動の時間に感じたことを書いてみよう。

発表：「夢中になれる夢を見つけたいと思う」「初心を忘れてはいけないと思った」「バスケットボールの楽しさがわかった」「自分の好きなことが将来につながるかもしれない」「人生の中でどんなことがあっても諦めないで進めば良いことがある」「チームワークの大切さを学んだ」「オリンピックについて学ぶことができた」「夢があればその夢に向かって頑張れると聞いたので、自分も頑張りたい」「スポーツへの興味が高まった」



・運動と座学の時間を振り返り、皆の発表を聞いて、真剣に取り組んでくれていたことが嬉しい。これから夢や目標に向かって行く中で、苦しいことや壁にぶつかる場面も多いと思うが、そんな時はオリンピックバリューを思い出してほしい。チャンスは誰にでも必ずくるので、どん底に落ちても乗り越えられることを忘れないでほしい。何事にも諦めずに努力し、前向きな気持ちを持ち続け、充実した学校生活を送ってほしいと話し、授業終了。

■オリンピック：小塚 崇彦 先生（スケート／フィギュアスケート）
【出場オリンピック／バンクーバー2010冬季大会】

■期 日：2023年7月12日(水)
■ク ラ ス：2年5組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・スケート／フィギュアスケート競技で、バンクーバー2010冬季大会に出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、今より次が良くなるように考えることはエクセレンス、班の仲間と協力することはフレンドシップ、ルールをしっかり聞き理解することはリスペクトだと説明。準備体操後、スキップやサイドステップ等を取り入れたサーキットトレーニングを実施。その後、じゃんけんに負けたら新聞紙を折り、折った合計数の多い班の勝ちとするゲームを行い、考えることの大切さを伝える。

○主運動等



・主運動は「ボール渡しリレー」を実施(全2回)。6班に分かれ、バレーボールを渡しながらかり返し地点を回って戻り順位を競う。ボールは全員で回し、折り返し地点も全員が回る。また、2回目はコーンを移動してはいけないルールを追加。1回目は順位にポイントを付け、2回目は順位のまま計算し、数字の少ない班の勝ちとする。途中作戦タイムを設けながら、ルールを良く理解し知恵を絞ってほしいと伝える。



・運動の時間を振り返り、スポーツには決められたルールが存在し、ルールをよく理解した上でどうすれば記録を伸ばすことができるかを考えることが大切である。皆は仲間と協力し、一生懸命作戦を考え取り組んでいた。そのことはオリンピックバリューにつながる。座学の時間は、運動の時間で感じたことが、オリンピックバリューとどう結び付くかを一緒に考える時間にしたいと話し、授業終了。

■ **オリンピック**：小塚 崇彦 先生（スケート／フィギュアスケート）
 【出場オリンピック／バンクーバー2010冬季大会】

■ **期 日**：2023年7月12日(水)

■ **ク ラ ス**：2年5組／座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・オリンピックシンボルについて、5つの輪は5大陸がつながり世界中が団結していることを表し、背景の白色を合わせた6色で世界中の国旗を描くことができる。近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンが理想とする人間像は、自己を知り自己を律し自己に打ち克つことだと提唱。自身の競技映像を見ながら、オリンピック出場の経験とオリンピックバリューを結び付けて話す。

○個人ワーク～グループワーク等



個人ワーク発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書いてみよう。

個人ワーク発表：「ルールを守って勝つための作戦を考えることは難しかった」等

グループワーク発問：合唱コンクールに向けて、オリンピックバリューをどのように活かせるか考えよう。

グループワーク発表：エクセレンス：「沢山練習する」「毎日練習する」等、フレンドシップ：「お互いにアドバイスし合う」等

リスペクト：「練習場所を提供してくれたことに感謝」「伴奏者と指揮者に感謝」等



・座学の時間を振り返り、オリンピックは特別で遠い存在であるというイメージを持っているかもしれないが、今日の授業で感じたことや普段の日常生活に当てはめてみると身近なものであることを理解して貰えたと思う。今後の学校生活の中で、勉強や部活動等に於いても、オリンピックバリューを感じながら過ごしてほしい。苦しいときや壁にぶつかる場面もあるが、その時にオリンピックバリューを思い出して乗り越え、充実した学校生活を送ってほしいと伝え、授業終了。

■オリンピック：小塚 崇彦 先生（スケート／フィギュアスケート）
【出場オリンピック／バンクーバー2010冬季大会】

■期 日：2023年7月12日(水)

■ク ラ ス：2年6組／運動の時間

○自己紹介～授業の目的確認～準備体操



・バンクーバー2010冬季大会にスケート／フィギュアスケート競技で出場したと自己紹介。オリンピックバリューについて、エクセレンス：「卓越」「一生懸命頑張る」、フレンドシップ：「友情」「仲間」、リスペクト：「敬意／尊重」「ルールを守る」と説明。準備運動はスキップやサイドステップを取り入れたサーキットトレーニングを行った後、じゃんけんに負けたら新聞紙を折り、班で新聞紙を折った回数を競うゲームを実施。ルールをよく聞き理解することの大切さを伝える。

○主運動等



・主運動は「ボール渡しリレー」を実施(全2回)。6班に分かれ、バレーボールを渡しながら折り返し地点を回って戻り順位を競う。ボールは全員で回し、折り返し地点も全員が回る。また、2回目はコーンを移動してはいけないルールを追加。1回目は順位にポイントを付け、2回目は順位のまま計算、数字の少ない班の勝ちとする。途中作戦タイムを設け、ルールを良く理解し知恵を絞ってほしいと伝える。



・運動の時間を振り返り、新聞を使ったゲームとボール渡しゲームのどちらも、決まっているルールの中でそのルールを理解し、知恵を絞ることは、1人ではなく仲間と意見を出し合うことで問題解決ができる良いアイデアが生まれる。そのことは全てオリンピックバリューにつながる。座学の時間は、自身のオリンピック出場の経験をオリンピックバリューに結び付けて話し、皆も自分自身のことに置き換えて考えてほしいと話し、授業終了。

- **オリンピック**：小塚 崇彦 先生 (スケート/フィギュアスケート)
【出場オリンピック/バンクーバー2010冬季大会】
- **期 日**：2023年7月12日(水)
- **ク ラ ス**：2年6組/座学の時間

○自己紹介～授業の目的確認～オリンピックの価値を伝える



・近代オリンピックの創始者であるピエール・ド・クーベルタンは、古代オリンピックに感銘を受け、スポーツを通じてより良い世界を作りたいと、1896年にアテネで第1回近代オリンピックを開催した。オリンピックの理想は、自己を知り自己を律し自己に打ち克つことだと唱え、世界平和を願ったと説明。自身の競技映像を見ながら、オリンピックバリューを説明し、特に恩師への感謝について、競技を指導してくれただけではなく、心からすべてを支えてくれたことに感謝していると話す。

○個人ワーク～グループワーク等



個人ワーク発問：運動の時間に感じたオリンピックバリューを書いてみよう。
 個人ワーク発表：「新聞紙じゃんけんの際、班が勝つためにお互いを信じて最後までやりきったこと」
 グループワーク発問：合唱コンクールに向けて、オリンピックバリューをどのように活かせるか考えよう。
 グループワーク発表：エクセレンス：「自分らしく一生懸命歌う」「最後までやりきる」等、フレンドシップ：「仲間と支え合う」「声掛け」「雰囲気をよくする」等、リスペクト：「周りの人に感謝」「気遣い」「苦手な人の気持ちを理解」等



・運動と座学の時間を振り返り、皆が決められたルールの中で、ルールを理解しどうすれば記録を伸ばすことができるかを考え工夫したことはオリンピックバリューにつながる。これからの学校生活や日常生活の中で、様々な目標や夢を持つと思うが、達成するためにどのようにすれば良いかを迷ったら、今日のオリンピック教室を思い出し、オリンピックバリューに当てはめて考えてほしい。そして益々充実した学校生活を送ってほしい伝え、授業終了。

■集合写真

・2年1組



・2年2組



■集合写真

・2年3組



・2年4組



■集合写真

・2年5組



・2年6組



■ 記念品贈呈

・ 2年1組



・ 2年2組



・ 2年3組



・ 2年4組



・ 2年5組



・ 2年6組



■ 修了証贈呈

